令和８年度　北里地区の学校を考える会

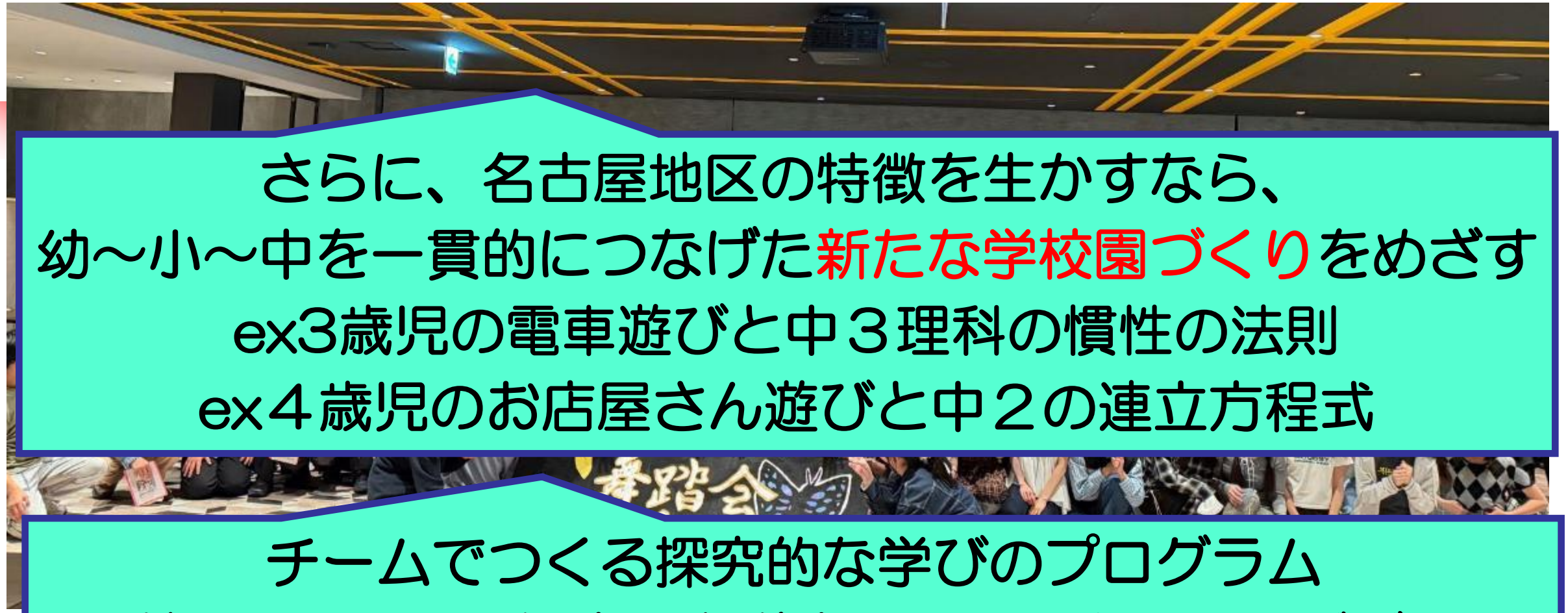
2026. 10. 4
10:00～11:00
@北里市民センター　講堂

学びや生活、探究の基盤をつくる
小中の一貫教育をめざして

～北里地区の強みを生かした一貫教育を考える～

愛知教育大学　加納　誠司

チームでカリキュラムを創ることのよさを実感中



さらに、名古屋地区の特徴を生かすなら、
幼～小～中を一貫的につなげた新たな学校園づくりをめざす
ex3歳児の電車遊びと中３理科の慣性の法則
ex４歳児のお店屋さん遊びと中２の連立方程式

チームでつくる探究的な学びのプログラム
子ども一人一人の探究心を遵守したカリキュラムデザイン
３年間で学び・育ちをつなげるカリキュラム・マネジメント
※チームで創ることの喜び・価値

これからの義務教育で目指すゴールの姿

刈谷市立富士松中学校　技術家庭科　社会科　総合

「富士中発　坊ちゃんかぼちゃ　ＮＥＷ　刈谷ブランド」

学んだことを生かして仲間と協力して課題に働きかける姿

仲間と協力して学ぶ（＝協同から）
仲間と協力して課題に対して
働きかける　発信する（＝協働へ）
※チャイムが鳴ったらおしまいの学習ではなく教室で学んだことを自分の生き方や社会に還す（＝生活化、社会化）

学んだことが生活で使えた
学びの有用感、学びと生活の好循環
が生まれる

社会科教諭 河合哲也先生は生徒の生活の中にある身近な食から、中学校における教科横断的な探究の実践を構築した
※彼はそこから、さらに教材研究、地域教材の発掘にはまっていく～

次期学習指導要領に向けての加納の興味・関心の所在は？

○主体的・対話的で深い学びの実装☞探究の質の向上学びの深化

○多様性の包摂☞協働的な学びの中でも学びの個性化の発揮

○自分の人生の舵取りは自分自身で行う、学びに向かう力・人間性の再整理☞自分の興味関心から学びをはじめ、そのベクトルを自分の生活や生き方につなげる　※自己調整力をどのように捉えるか？

＜幼保こ小への連携・接続に向け生活、総合探究の視点で整理＞

※学習指導要領改訂に向け体験的・探究的に学ぶ意義を示す！

○生活科では身体活動の重視☞創設期からの当たり前

○総探では思考のプロセスにおいて探究の質を高める

☞情報の収集においてICTを活用することで探究の質を高める

☞探究の領域と情報の領域のすみ分け　※総合のよさを遵守！

新たな教育課程に向けた動き（全般・探究編）

現行学習指導要領分析から次期学習指導要領改訂を見据え…

【子どもが学びの舵を握る授業を展開】

ex名古屋市のナゴヤまなびのコンパス（学びの羅針盤）

☞非認知能力、夢中になって探究、つながり、自分で決める学習

ex三河安城小Myプラン学習（単元内自由進度学習）を展開

【教育課程を編成し探究的に学ぶ時間を位置づける】

exR7から小牧市では「夢チャレンジ科」の創設しMy探究（個人探究）を小学校で＋30時間、中学校では＋20時間

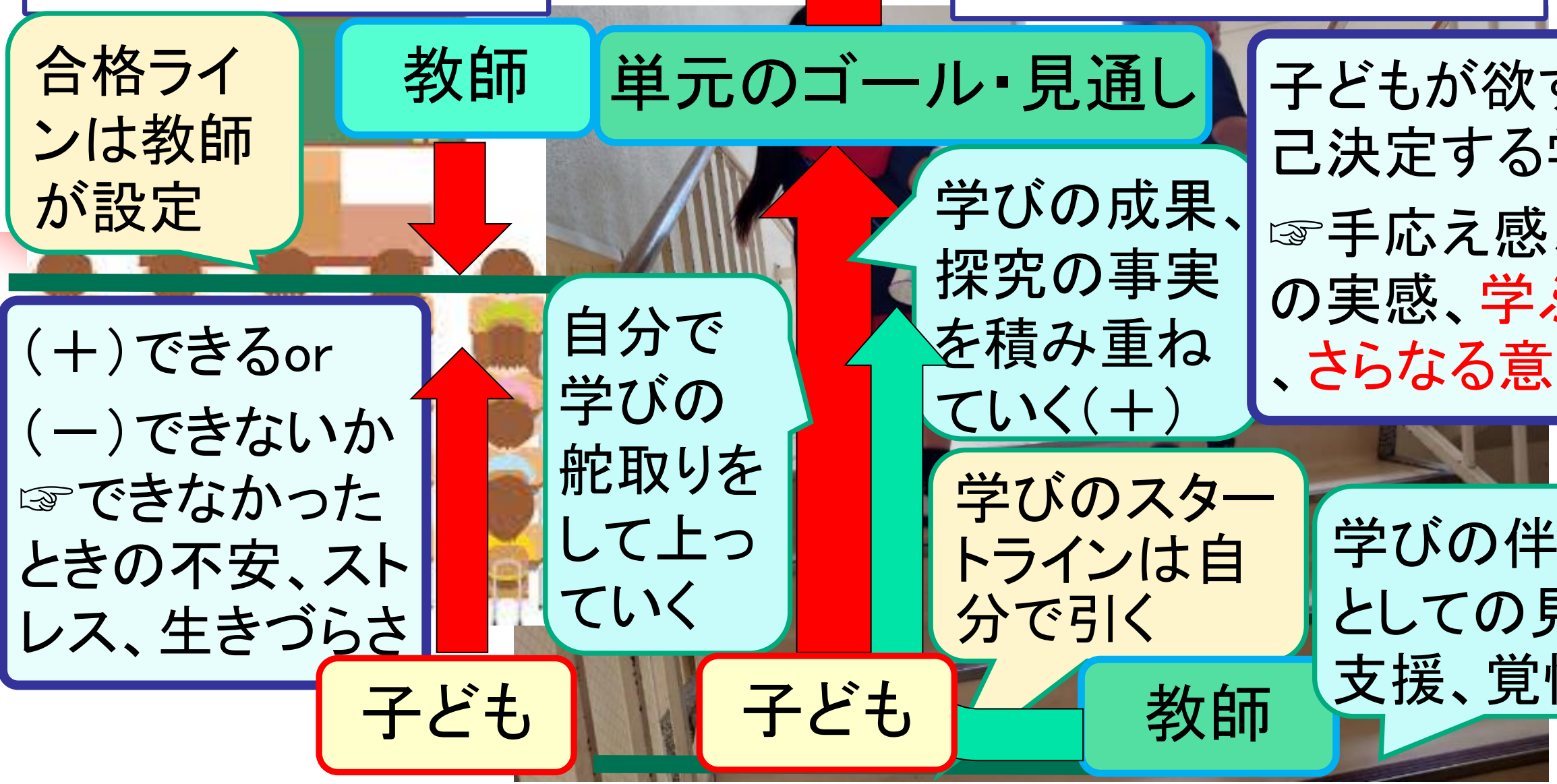
☞いずれも総合の時間数は据え置きで＋αを生み出す

※生涯探究時代の到来を見据えた教育課程へ舵をきる！？

ex単元内自由進度学習の効果

ゴールを超えても学び続ける

従来の一斉授業	単元内自由進度学習



合格ラインは教師が設定

教師

単元のゴール・見通し

子どもが欲する自己決定する学び

☞手応え感、成長の実感、学ぶ喜び、さらなる意欲…

学びの成果、探究の事実を積み重ねていく（＋）

（＋）できるor（－）できないか

☞できなかったときの不安、ストレス、生きづらさ

自分で学びの舵取りをして上っていく

学びのスタートラインは自分で引く

学びの伴走者としての見取り、支援、覚悟

子ども

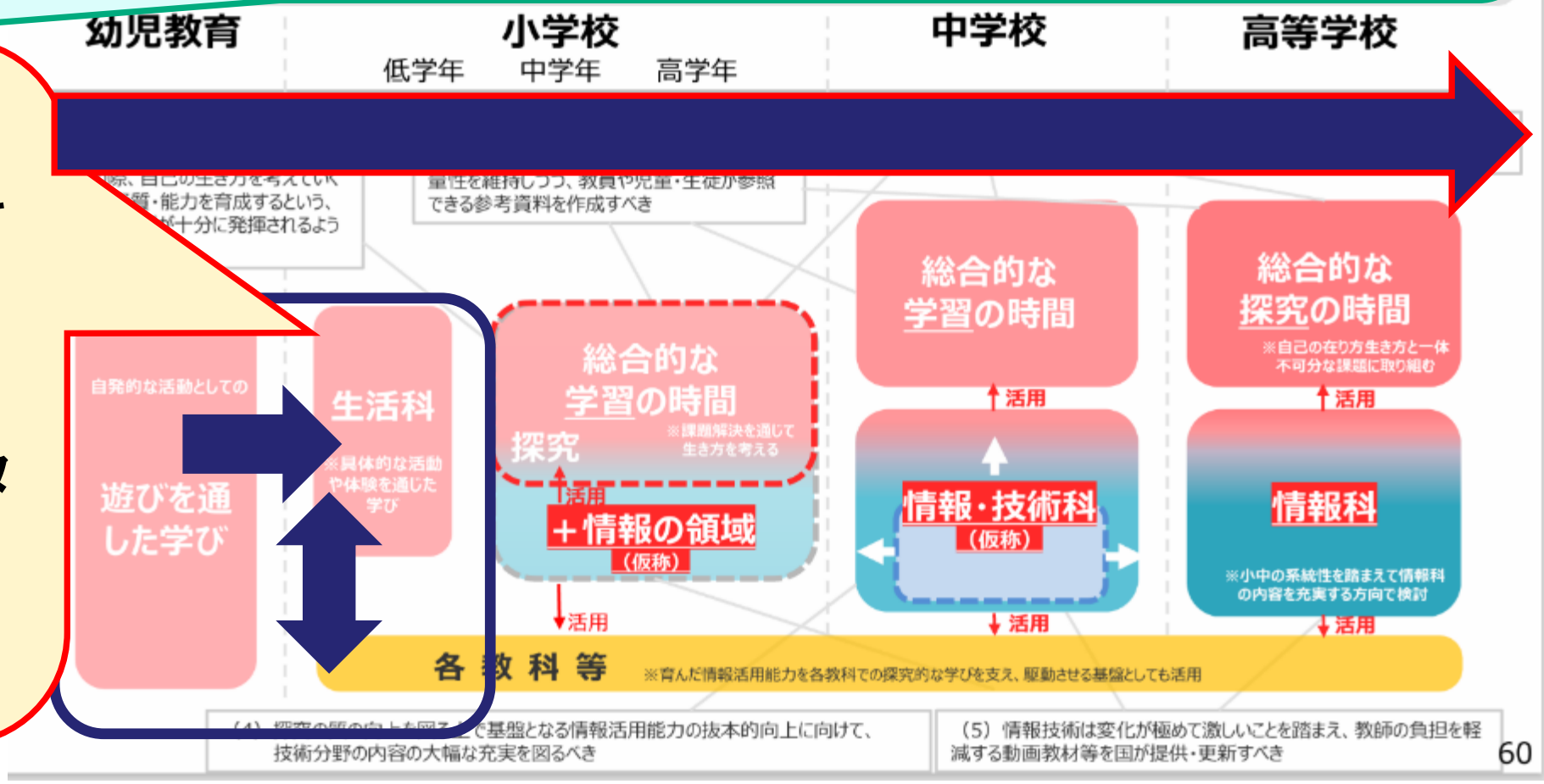
子ども

教師

幼小中高の発達段階を通し探究的な学びに取り組む

探究、学びの自走:「やってみたい」「知りたい」で活動(対象)に浸り込むetc、これまで幼児教育が大切にしてきた子ども観・指導観(☞子どもの見取り、伴走車としての教師)で義務教育～高等教育を繋げる

【生活科の役割】
幼児教育との架け橋、活動や体験を通した自発的な学びを3年生以降(タテ)、各教科(ヨコ、ナナメ)に繋げる



探究とは…探究的な学び・生き方の大切さ
教員採用試験大学推薦選抜試験の一場面

あなたの長所を大学時代に頑張ったことを例に教えてください

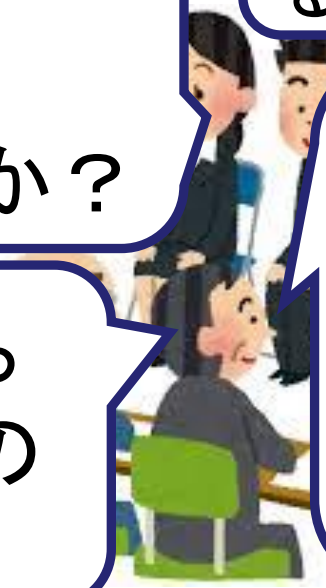
（堂々と）私には教科に関する知識があります、授業を頑張りGPAは〇〇（数値）でした

それだけですか？

（少々表情が曇り）専門性に関する科目の評価はすべてSでした…

本当に大学時代頑張ったことは大学の勉強ですか？

それがあなたのよさですか？



…（少し考えて）…

私のよさは探究心があることです、何度も何度も試行錯誤しプログラミングを駆使しゲームアプリを開発しました

うん、そっちのほうが君らしいし、よっぽど面接官の心を打つよ

新たな教育課程に向けた動き（新たな学校の在り方編）

資質・能力の育成において学校が担う役割を見据えてみると…

【出口：進む小小連携、小中連携における低学年教育の充実】

ex岐阜市立藍川北学園わかあゆ学習では**4年生まで生活科!?**

ex中学校区による統一カリキュラム開発

※つなげるポイントはボトムアップ、その基盤こそ生活・探究

【入口：学び育ちのつながりを意識したカリキュラムの創造】

ex名古屋市のつながるプロジェクトを受け、

R7は幼小交流カリキュラムの開発…R8は…



ex岐阜市幼児教育推進プランを受け、

R7においても岐阜市の幼小連携推進事業の継続、推進

※架け橋期カリキュラムの開発は必然、この小牧の地でも…

★岐阜市立藍川北学園の視察（26.10.2）より

【メリット】

〇教育費

〇教員数

〇独自の教育課程の編成
　☞柔軟な教育課程

〇系統的・連続性のある教育

〇精神的な発達や
　社会性の育成

〇継続的な児童生徒の関わり
　☞中１ギャップの解消

【デメリット】

〇初期費用

〇施設の使用、管理の難しさ

〇他の小中学校教育との
　整合性

〇仲間関係の固定化

〇自主性やリーダーシップを
　養う機会の減少

★岐阜市立藍川北学園の視察（26.10.2）より

義務教育学校（小中一貫教育）を進めるキーワード

〇９年間の異年齢教育の充実
- １年生と９年生がともに学び合う環境
- 温かな触れ合い
- 保護者の安心感

〇わかあゆ学（探究）の充実
- ９年間の系統性
- 自然体験から人、こと「生きるを学び　未来を拓く」

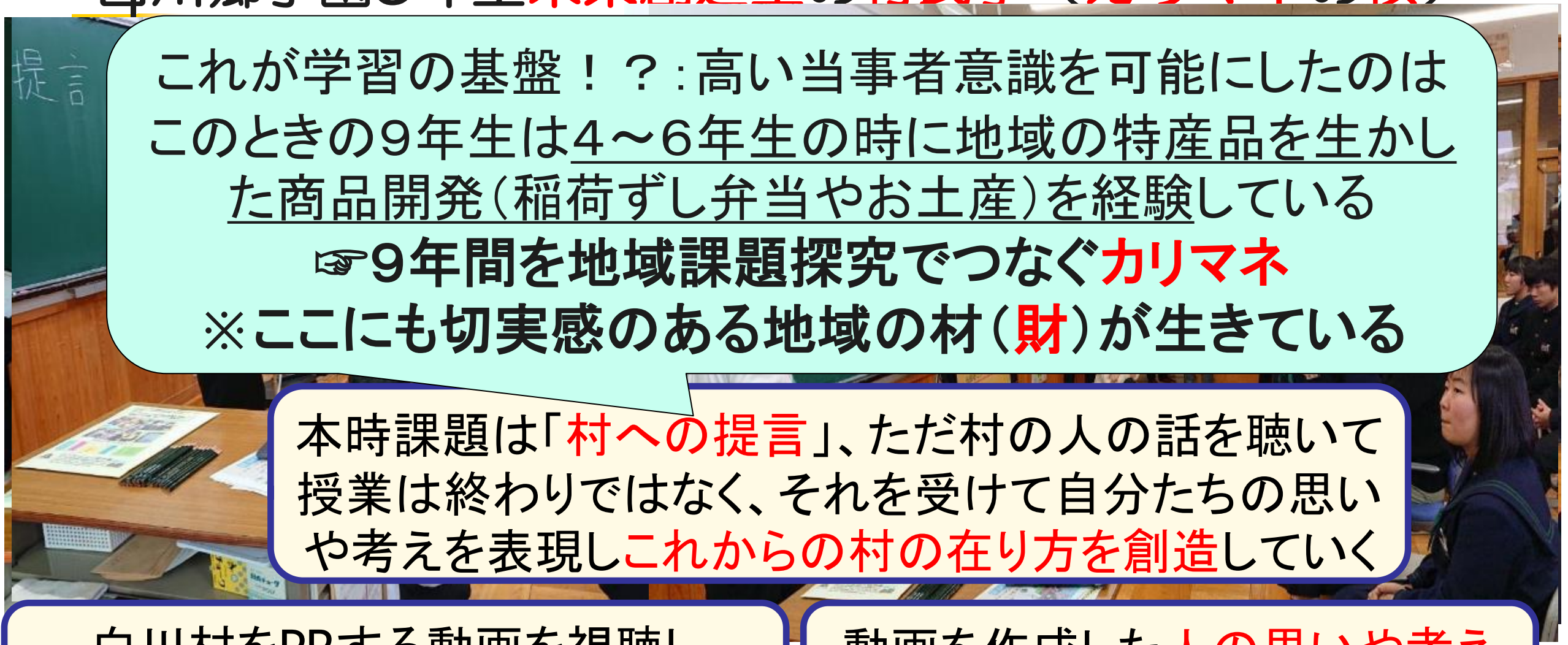
〇地域の学校
- 地域の温かな目のもと安心して教育活動を行う

加納の授業づくり・学校づくりの視点

〇ますます予測測困難な現代社会において、
未来を担っていく子どもの育成をどう築いていくか？
☞授業や教師は子どもの人生を変える、地域の未来を創る
〇自ずと、新たな教育課程に向けて授業づくり・学校づくりの視点が見えてくる

☞「生活～探究～生き方」のプロセスで授業をつくる
☆1　子どもの生活（興味・関心）から問いを設定する
☆2　問いの探究、自分で問いの解決方法を考え、
　　自分が納得する最適解をじっくり、考えて考えて導き出す
☆3　導き出した最適解を生き方に生かす、生活に還元する

生き方に生かす：これからの義務教育で目指すゴールの姿②
白川郷学園9年生未来創造型の村民学（カリマネの核）



これが学習の基盤！？：高い当事者意識を可能にしたのは
このときの9年生は4～6年生の時に地域の特産品を生かした商品開発（稲荷ずし弁当やお土産）を経験している
☞9年間を地域課題探究でつなぐカリマネ
※ここにも切実感のある地域の材（財）が生きている

本時課題は「村への提言」、ただ村の人の話を聴いて授業は終わりではなく、それを受けて自分たちの思いや考えを表現しこれからの村の在り方を創造していく

白川村をPRする動画を視聴し
未来の白川村の在り方を討論する

動画を作成した人の思いや考え
を聴き当事者意識を高めていく

これからの授業づくり学校づくりに求められる新たな観の確立

生徒観・授業観の転換 主体的・対話的で深い学びの実現

教科目標に示された見方・考え方と育成すべき資質・能力

これからの教育課程で目指す資質・能力とは？

☞愛知教育大学の新たなカリキュラム、学生をマレーシアに引率して感じたこと



生きた知識･技能を実際の生活場面で活用する汎用的能力と、異国の地で多様な人々と距離を縮めることができる豊かな心情･人間性（資質）

生活～探究～生き方でどんなカリマネをデザインするか！例えば

学校教育目標
可能性への挑戦
未来をデザイン

自らの手で未来を切り拓く生徒

①問いを生む力②考えを深める力③学びを行動に移す力

＜生　活　～探　究　～生き方＞

3つの力を生かす場
☞授業・生活

各教科・領域の見方・考え方を働かせながら資質・能力の育成する

探究モード　（活用融合）活用

B:探究型学習

A:習得型学習

非認知能力

認知能力

手立て①思いや考えを大切にした単元構想
と心が動くような導入の工夫
手立て②仲間の考えと往還して聞き合い
考えを再構築するかかわり合い
手立て③思考の揺さぶりと活性化、
思考の深化を図る授業展開
手立て④聞き合いスキルアップ「伝えタイム」
手立て④3つの力を発揮する場

生徒主体の
能動的な
課題解決学習
魅力的な
単元構想

教科内容中心
課題解決
に必要な
知識・技能

安城西中の生徒の姿：人とかかわる力、素直、生き生きと学校生活を過ごす

カリキュラム・マネジメントの３つの側面

①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。

②教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。

③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。（「時間」という資源をいかに活用するか）

☞チーム学校（地域全体で子どもを育てる）

蒲郡東部小学校 高学年部会　授業研究の視点（24.10.4）

研究主題「地域とともに心豊かに生きる子ども」のゴールの姿は？
そこに導くための授業スタイル「かかわりを大切にした学び」

☆チーム高学年部会の独創的な授業の2つの研究の視点☆

○人とかかわって学ぶ過程において、効果的な教師支援
（問い返しや構造的な板書）によって、
子どもたちの考えは深まったり変容したりする

その姿を実現するために…

○子どもたちの学ぶ価値のある教材の選定
○子どもたちの思いが先細ることのない年間を貫く
新たな探究的な学びのプロセスの構想

蒲東小6年総合：地域の人と蒲郡の未来を語るがまみら会議

【①見つける：問いとの出会い：地域の材（財）から
探究人とともにつくる学習課題に出会う】
※蒲東スタイルのGTは探究人：蒲郡の課題を共有できる地域の人
☞思考が課題解決（地域のよりよい未来）に向かって動き始める

【①見つける：探究的な学びにおける問いの設定】
※課題探究に値する地域に存在する切実な課題を自ら設定する
☞これからの地域に思いや願いを寄せられるような学習材（財）

☆未来創造型の探究スタイル☆

地域の財とのかかわりを子ども発信で
実現させたことががまみら会議の価値

教師のしたたかなしかけと
綿密な教材開発・構想がある

探究の出発点「自分にとって特別な材」に出合ったとき
知りたいやりたいが生まれ材が自分にとって特別な財となる

○“鯛（たい）”が跳ねる授業

○対象に向き合い思いや考えが表出され
　願い（蒲郡の明るい未来）に向かう

○それを授業の中で表出させる

　☞*探究課題解決の根底は*

　思いや願いの実現で構成される



思いや願いは与えるのではなく引き出す
☞子どもの一番の理解者である教師しかできない

☆出あう対象は子どもにとって身近な素材であること
　自分で解決できる（解決したい）課題（対象）が子どもの心を動かす
☞3つの手立てと4つのプロセスによって自己の成長を実感させる☆

蒲東小5年：「わたしたちのまち蒲郡の海～それって！？実際どうなのか～」鳥居T「海を大切にしたい人を増やすためにどう伝える？」



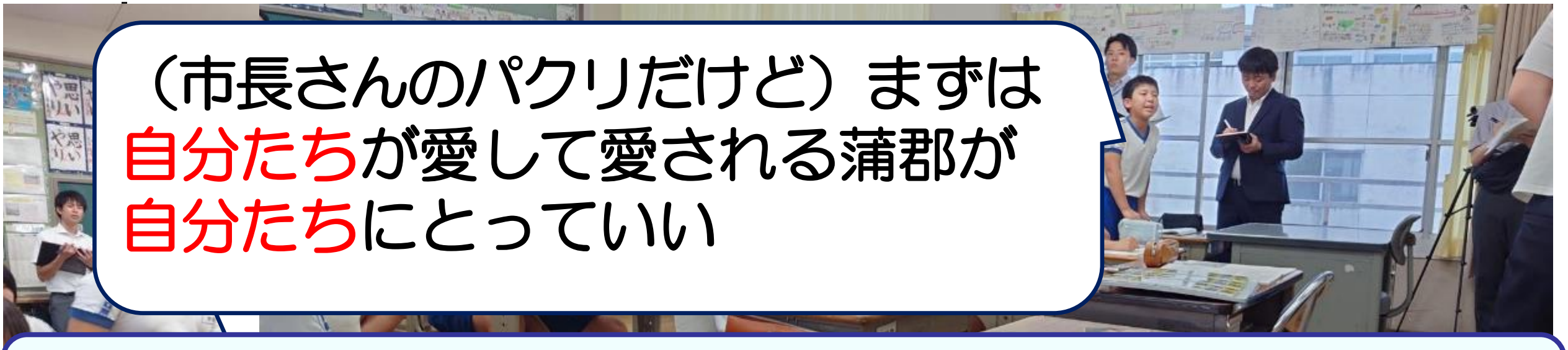
【②さがす～③まとめる：個と課題との対話⇔仲間との対話】

☞蒲郡東部小の4つのプロセスをつなぐのは問いの意識

※広がった（批判的）思考から深まった（創造的）思考へ

※《～との対話》＝《自分と～との往還》

蒲東小６年：「蒲郡未来プロジェクト～がまみら！ぼくらの未来はINFINITY∞」大浦T「蒲郡の未来のために自分たちにできること？」



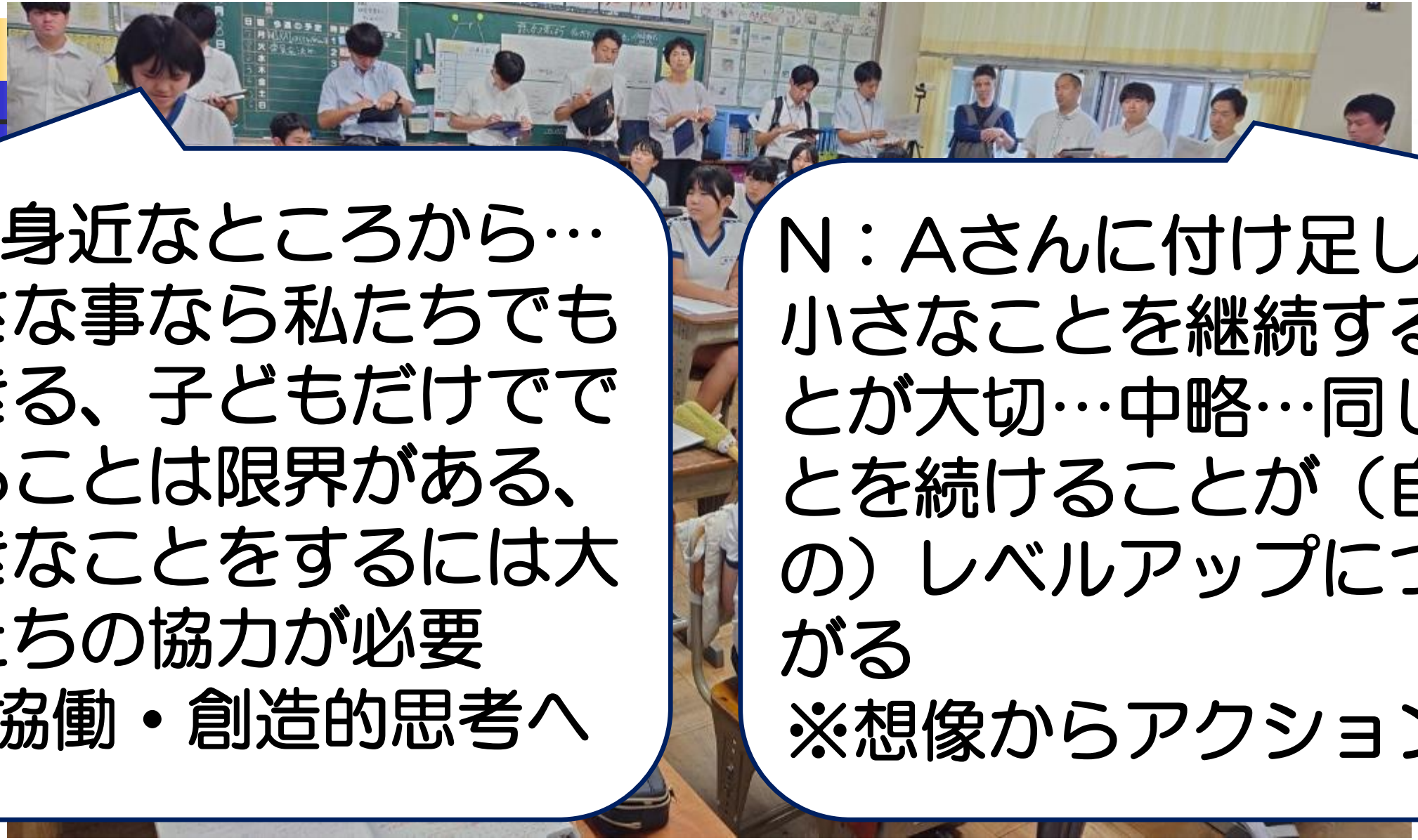
（市長さんのパクリだけど）まずは
自分たちが愛して愛される蒲郡が
自分たちにとっていい

【③まとめる～④つながる：最適解を求め未来志向で熟考する】

☞空間軸（地域と自分）と時間軸（今の自分とこれからの自分）で捉える授業展開

☞蒲東スタイルの探究プロセスは順列的というよりも…
双方向のスパイラル　☆「まとめ・表現」の一歩先をめざす
※思考～判断～（自分にとっての最適解を）表現・創造へ

蒲東小６年：「蒲郡未来プロジェクト～がまみら！ぼくらの未来はINFINITY∞」大浦T「蒲郡の未来のために自分たちにできること？」



Ａ：身近なところから…小さな事なら私たちでもできる、子どもだけでできることは限界がある、大きなことをするには大人たちの協力が必要

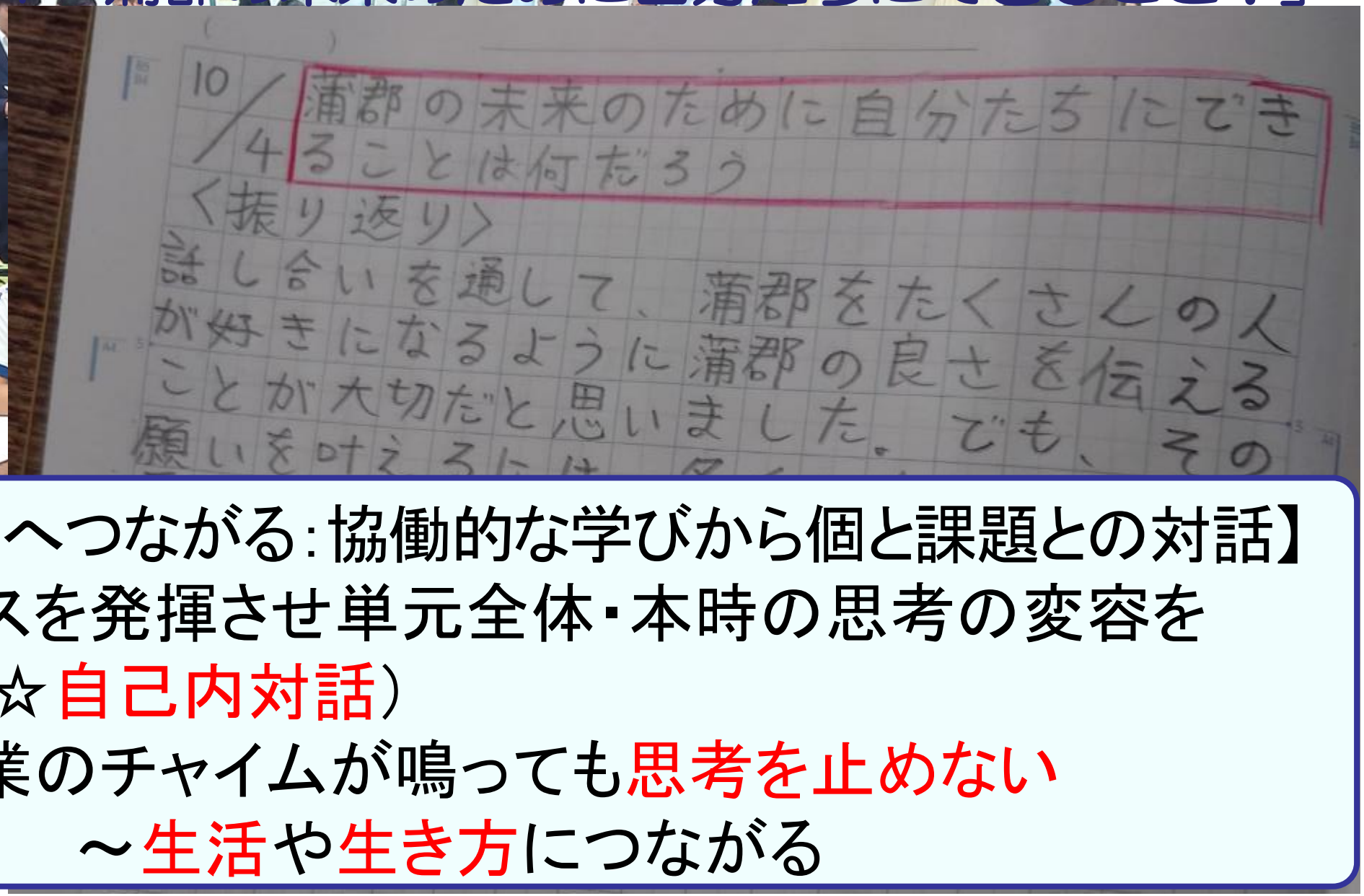
※協働・創造的思考へ

Ｎ：Ａさんに付け足しで小さなことを継続することが大切…中略…同じことを続けることが（自分の）レベルアップにつながる

※想像からアクションへ

蒲東小６年：「蒲郡未来プロジェクト～がまみら！ぼくらの未来はINFINITY∞」大浦T「蒲郡の未来のために自分たちにできること？」





【④～次の展開へつながる：協働的な学びから個と課題との対話】

☞４つのプロセスを発揮させ単元全体・本時の思考の変容を

メタ認知する（☆自己内対話）

※終業のチャイムが鳴っても思考を止めない

～生活や生き方につながる

探究のプロセスを稼働させる問いの意識に着目（24.6.27）

☆蒲郡東部小学校大浦彩先生の考え続ける6年総合☆
本単元「蒲郡未来プロジェクト　～がまみら！
ぼくらの未来はINFINITY∞～」における
本時「蒲郡のまちを探り、考えたことを話し合う」の
学級対話の授業から、蒲郡東部小で目指す
「かかわりを大切にした学び＝自分の最適解を判断し
地域の未来を創造するとがみっ子」の姿とは何かを考える
R6の6月だから、よりシンプルに！でもチャレンジングに！

【蒲郡東部プランで目指す授業スタイルも視野に入れ】
Q　かかわりを大切にした学びとは？
A　学びが自分事であること（個別最適な学び、個の探究を保障）
A　他者の考えを知り（協働）、よりよい考え方を熟考する子（探究）

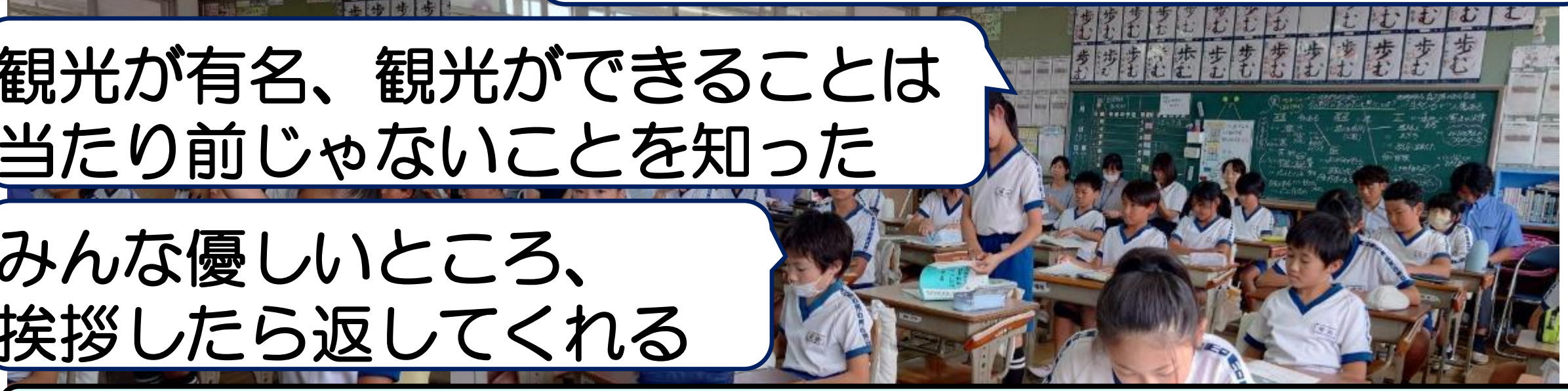
蒲東小6年「蒲郡のまちを探り、考えたことを話し合う」

自然が豊か

竹島、ラグーナ、三谷温泉、オレンジパーク、観光地がいっぱいある

観光が有名、観光ができることは当たり前じゃないことを知った

みんな優しいところ、挨拶したら返してくれる



1　本時のめあてを確認する

※個人探究の中からこれまでの学びを想起する

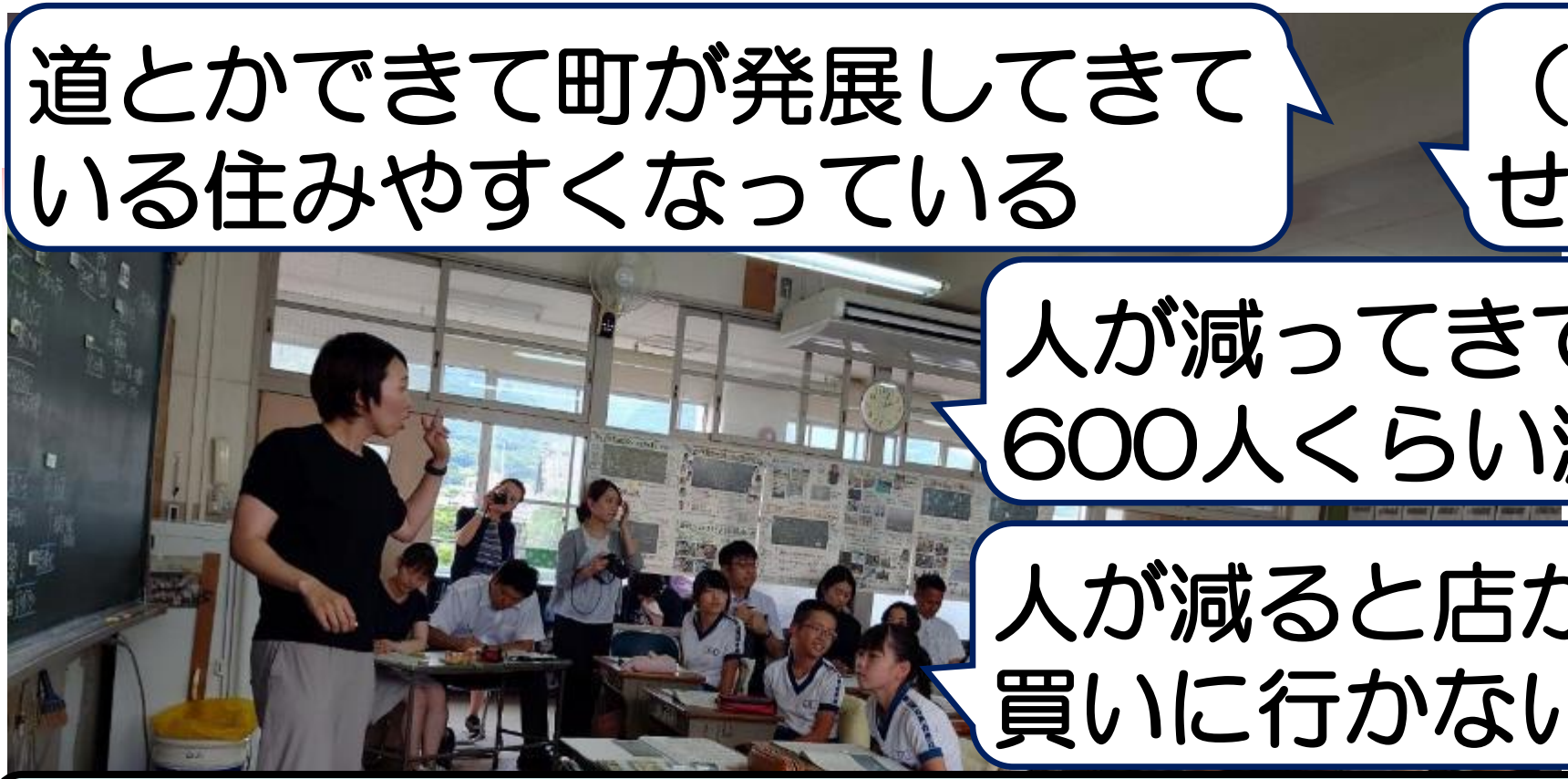
※蒲郡市の現状～未来の姿に切実感をもたせる

☞単元（46時間）の流れの中での学習課題であることをつかむ

蒲東小6年「蒲郡のまちを探り、考えたことを話し合う」

道とかできて町が発展してきている住みやすくなっている

（つぶやき）そのせいで自然が…



人が減ってきている、R5から600人くらい減っている

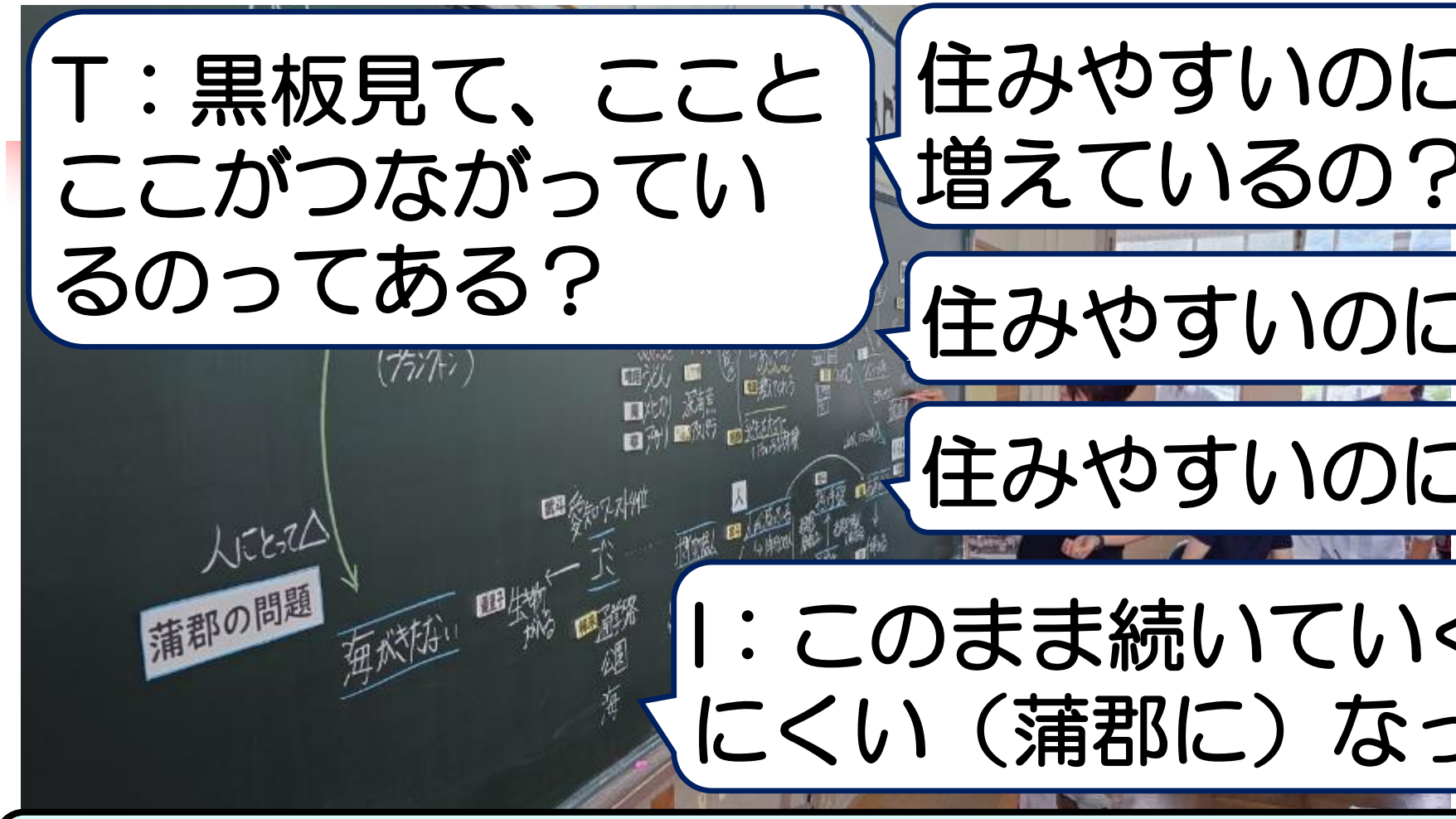
人が減ると店が減る、遠くまで買いに行かないといけない

2―①　自分の考えを学級全体に広げる

※「よさ」と「問題」の表出～思考の整理（よさと課題の往還）～判断…

☞点（本時課題）が線（よりよい未来を実現するためにどうする？）に比較したり関連付けたりして思考が巡り始める

蒲東小6年「蒲郡のまちを探り、考えたことを話し合う」



T：黒板見て、ここと
ここがつながってい
るのってある？

住みやすいのに何で空き家が
増えているの？

住みやすいのに店が減る

住みやすいのに店が減る

I：このまま続いていくと、また住み
にくい（蒲郡に）なってしまう

2―②　比較・関連から思考の往還を図りながら～深める
※自分の考えと友達の考えを往還させて聴き最適解が更新されていく
☞思考と思考とを往還・接続を図る教師の「でば」に注目！

本時の心豊かなとがみっ子の姿と大浦先生の教師支援



３　本時の学習を振り返り～新たな価値を創造～次の展開へとつなぐ

※最適解に向かって創造的思考（新たな価値）を発揮（こうしたい！）

☞自分の最適解（思考）に根拠（判断）をもってこうしたい（表現）！

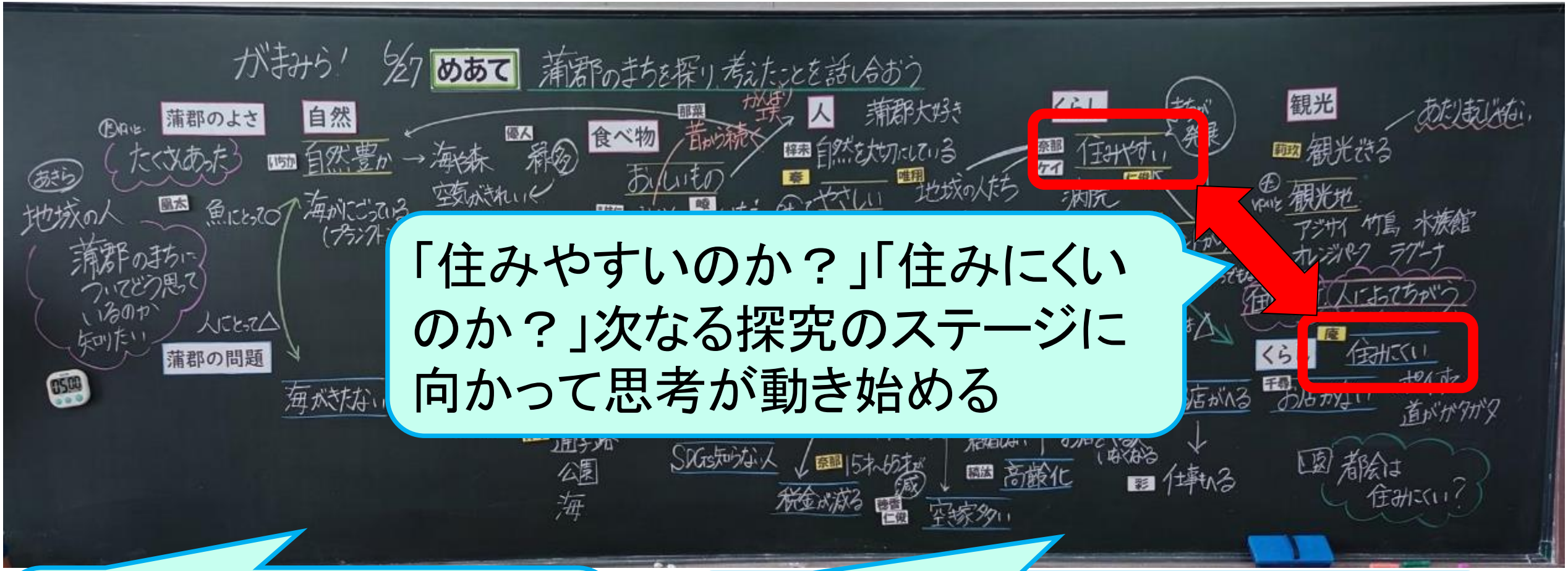
と言えるとがみの子でありたい

☞例え表現できなくても思考し（考え）続けるとがみっ子でありたい

※新たな探究のステージ（次、やりたいこと）へ生かす

☞さらなる問いや新たな願いが生まれていくことで思考は再稼働する

蒲東小6年「蒲郡のまちを探り、考えたことを話し合う」



「住みやすいのか？」「住みにくいのか？」次なる探究のステージに向かって思考が動き始める

この問いの最適解を知るために子どもの思考は
がまみら会議へ

複数回のがまみら会議～
（10.4の話し合い）を経て…
がまみらFes、がまみらアクションへ

生活の中にある問いを６年間の学校カリキュラムでつなげる

学びのエネルギーをもとに考え続ける子の育成

自分の生き方を考え続ける（探究）※協働重視
【６年】地域の未来を創造する生活・生き方へ
【５年】探究課題解決から参画・働きかけへ

仲間と共に課題探究する学び方を学ぶ※協同重視
【４年】地域の事実からよさや課題を発信へ
【３年】生活の中の自然（事象、事実）を学ぶ

体験的（探究的）に学ぶ素地を築く　※個重視
【２年】体験から自立に向かって生活を科学する
【１年】遊びから学びへ（無自覚⇒自覚化）

生活の中にある教科の学び

特別支援教育（生活単元・自立活動）はすべての学年、内容につながる素地（学びの原点）
☞学び育ちがつながる足跡
☞学ぶこと成長することへの喜びを実感

もともともっている子どもの学びのエネルギーを発揮する※非認知能力

総合との関連 尾張旭市立西中３年間 縦の個人探究カリキュラム

高等学校 総合的な探究の時間へ※新たな探究（生き方）のスタート

自己のキャリア実現のため自分の生き方を拓く
☞自己実現探究型重視
【３年】上級学校訪問の体験を友達に伝え合う

中学校探究のゴール
※自分の生き方の未来創造

地域課題探究から自分の生き方を見つめる
☞キャリアデザイン探究型重視（自己内対話）
【２年】尾張旭再発見～能動的なキャリア単元

中学校探究の核
※自分の生き方を問い続ける

体験も含め課題探究を繰り返す（体験⇒探究）
☞3小学校の交流を意識した課題探究型重視
【１年】博物館連携で課題探究、学年行事etc

中学校探究のスタートカリキュラム
※個から協働

小学校での地域課題探究を素地として中学校の探究を確立する

カリキュラムリーダーの役割と可能性

○管理職（学校マネジメント）と担任教員とをつなぐ

☞カリキュラムリーダーとしての存在

○若手教員の増、学校単位での能動的な研修は必須

子どもの思考で授業をつくる教師の育成、評価方法の向上

☞皆で学び合い・高め合える学校文化を築く

○カリマネ3つ目の側面に向けて地域や学校間をつなぐ

地域と連携して人的・物的財産をカリキュラムに反映する

☞社会に開かれた教育課程、チーム学校の実現

○新たな教育課題への対応

☞afterコロナ、SDGs教育、防災・減災教育の位置づけ

そんなことを踏まえて…加納の最近の関心の所在は

〇キャッシーデビッドソンの未来予測の結果がでる2026年…

☞人間の強みを生かした教育の模索

〇新たな学校の形が進む中で学校の個性化の確立

☞子ども、教師、地域の特徴を生かしたカリマネへ

〇カリマネ3つ目の側面に向けて地域や学校間をつなぐ

地域と連携して人的・物的財産をカリキュラムに反映する

☞社会に開かれた教育課程、チーム学校の実現

※新たな学校づくりのカギをにぎるのは…

やっぱり生活～探究～生き方だな～！？